

◆宮城県では、H27関東・東北豪雨の経験から僅か4年後に令和元年東日本台風が発生し、観測史上最大の降水量を記録、広範囲において甚大な被害が発生した。
 ◆豪雨災害の頻発化・激甚化の対応として治水対策の更なる強化が必要となり、洪水被害の防止・軽減に向けた宮城県としての「治水対策の在り方」を検討した。
 ◆近年の豪雨災害や今後予想される施設規模・能力を超過する洪水の発生に備え、流域全体で協働する治水対策を推進する。氾濫しづらいこと、氾濫しても被害を最小化・早期復旧できることを目標に、今後の治水対策の基本方針を「持続可能な地域社会とするため、氾濫をできるだけ防ぎ、被害対象を減少させ、被害を軽減するよう、地域全体で備える」とする。

基本方針： 持続可能な地域社会とするため、氾濫をできるだけ防ぎ、被害対象を減少させ、被害を軽減するよう、地域全体で備える

p.5

※ページ番号はスライドの番号

●宮城県の治水対策を進める上での問題点 p.5

- 気候変動に伴う異常気象・治水安全度の将来的な低下
- 河川整備水準の進捗
- 既存河川管理施設の更なる有効活用
- 洪水情報空白地での被害
- 既往システムの脆弱性
- 既往施設の維持管理コスト
- 将来的な人口減少・高齢化
- 低平地への人口集中

宮城県における治水対策の在り方 p.6,p.10

- ① 将来の降雨量を踏まえた計画作成
- ② 河川(ダム、遊水地)整備の更なる加速化
- ③ 河道能力を十分発揮するための適切な維持管理の実施とダム施設の適切な更新
- ④ 既存ダムの治水機能の強化
- ⑤ 命を守る避難態勢強化に向けた河川情報提供の充実強化
- ⑥ 「流域治水」の考え方に基づく防災・減災対策の推進

●課題解決の対応方針

◆氾濫をできるだけ防ぐための対策 p.18

① 将来の降雨量を踏まえた計画作成

<ハード対策>ソフト対策

- 気候変動を踏まえた計画(目標管理、施設設計外)の見直し p.23

② 河川(ダム)整備の更なる加速化

<ハード対策>

- 河川整備計画の継続的実施 p.24
- 河川と堤防が一体となった氾濫の防止機能の向上対策 p.26
- 土地利用と一体となった治水機能の向上
- 「粘り強い堤防」を目指した堤防強化 p.25

③ 河道能力を十分発揮するための適切な維持管理の実施とダム施設の適切な更新

<ソフト対策>

- 戦略的な維持管理の推進(アドプ制度) p.32
- 状態監視と維持管理の高度化(UAV・衛星) p.34
- 新技術開発の推進
- 広域的な被災情報を迅速に把握

④ 既存ダムの治水機能の強化

<ハード対策>

- 利水ダムを含む既存ダムの洪水調節機能の強化(ダム貯水地の復元、利水容量も活用した事前放流) p.28

⑥ 「流域治水」の考え方に基づく防災・減災対策の推進

<ハード対策>

- 下水道施設の耐水化 p.29
- 下水道(雨水)及び雨水貯留施設の整備促進 p.30

<ソフト対策>

- 都市部の内水氾濫対策の強化
- 流出抑制対策の充実(田んぼダム、ため池等) p.30,42

◆被害対象を減少させるための対策 p.19

② 河川(ダム、遊水地)整備の更なる加速化

<ハード対策>

- 地域拠点の集約化と一体となった治水施設等の整備
- 家屋等の被害範囲を限定するために二線堤の整備や自然堤防の保全を推進

⑤ 命を守る避難態勢強化に向けた河川情報提供の充実強化

<ソフト対策>

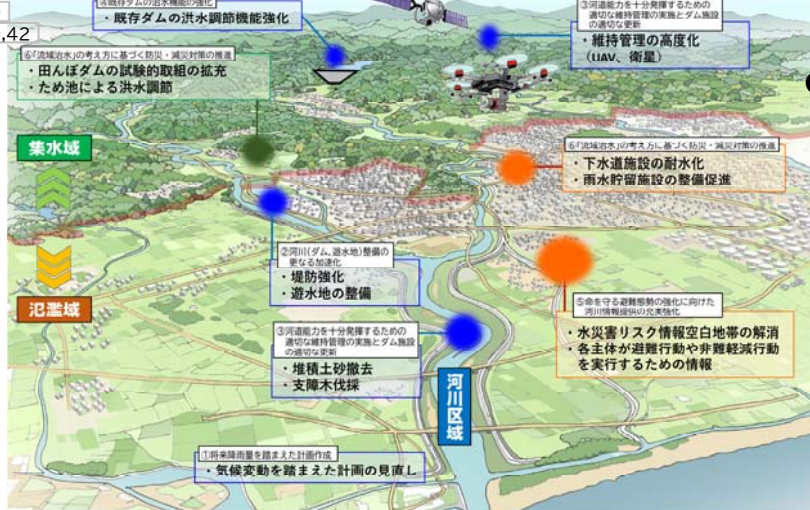
- 水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫 p.41
- まちづくりや住まい方の工夫に必要な土地の水災害リスク情報の充実 p.44
- 水災害リスク情報空白地帯の解消 p.35

⑥ 「流域治水」の考え方に基づく防災・減災対策の推進

<ソフト対策>

- 水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫 (重複) p.41
- まちづくりや住まい方の工夫に必要な土地の水災害リスク情報の充実 p.44

●宮城県の治水対策の在り方(イメージ)



◆被害軽減のための対策 p.20

⑤ 命を守る避難態勢強化に向けた河川情報提供の充実強化

<ソフト対策>

- 水災害リスク情報空白地帯の解消 p.35
- 各主体が避難行動や被害軽減行動を実行するための情報 p.36
- 各主体の避難行動や被害軽減行動を促すための情報共有方策やその伝え方 p.37
- 〔水位計や河川監視カメラを増強、河川流域情報システム(MIRAI)の機能拡充〕
- 住民の主体的な避難行動につながるための平時の取組 p.38
- 〔防災教育充実、防災活動計画の促進〕
- 住民の主体的な行動につなげるための地域で個人までの避難計画づくり p.39
- 災害の伝承 p.40
- BCPの策定の推進

⑥ 「流域治水」の考え方に基づく防災・減災対策の推進

<ソフト対策>

- 様々な主体の水災害対策の取組につながる水災害リスク情報の充実 p.43
- まちづくりや住まい方の工夫に必要な土地の水災害リスク情報の充実 p.44

●『速やかに実施すべき施策』と『段階的に実施すべき施策』に分類

項目	実施目安	実施(全線)・期間(全線)・注(注釈を参照)	分類
●氾濫をできるだけ防ぐための対策	5年	10年	速やか
① 将来の降雨量を踏まえた計画作成			速やか
② 河川(ダム、遊水地)整備の更なる加速化			速やか
③ 河道能力を十分発揮するための適切な維持管理の実施とダム施設の適切な更新			速やか
④ 既存ダムの治水機能の強化			速やか
⑤ 命を守る避難態勢強化に向けた河川情報提供の充実強化			速やか
⑥ 「流域治水」の考え方に基づく防災・減災対策の推進			速やか
◆被害対象を減少させるための対策			速やか
② 河川(ダム、遊水地)整備の更なる加速化			速やか
⑤ 命を守る避難態勢強化に向けた河川情報提供の充実強化			速やか
⑥ 「流域治水」の考え方に基づく防災・減災対策の推進			速やか
◆被害軽減のための対策			速やか
⑤ 命を守る避難態勢強化に向けた河川情報提供の充実強化			速やか
⑥ 「流域治水」の考え方に基づく防災・減災対策の推進			速やか

●令和元年台風第19号を踏まえた今後の治水対策の在り方検討会の位置づけ

